

総務産業委員会報告書

令和5年11月13日

備前市議会議長 守井秀龍 様

委員長 山本 成

令和5年11月13日に委員会を開催し、次のとおり議決したので議事録を添えて報告する。

記

案 件	調査結果	備考
1 農林水産業についての調査研究 ① 備前市里海・里山ブランドについて ② ひなせうみラボについて ③ 耕作放棄地の活用について	継続調査	—
2 文化観光についての調査研究 ① 北前船について	継続調査	—

《 委員会記録目次 》

招集日時・出席委員等	1
開会	2
閉会中の継続調査事件	2
農林水産業についての調査研究	2
文化観光についての調査研究	18
閉会	27

総務産業委員会記録

招集日時	令和5年11月13日（月）		午前9時30分	
開議・閉議	午前9時30分	開会 ～	午前11時58分	閉会
場所・形態	委員会室	閉会中の開催		
出席委員	委員長	山本 成	副委員長	内田敏憲
	委員	尾川直行		石原和人
		森本洋子		藪内 靖
		松本 仁		
欠席委員		なし		
遅参委員		なし		
早退委員		なし		
列席者等	議長	なし		
傍聴者	議員	なし		
	報道	なし		
	一般	なし		
説明員	日本遺産・観光部長 兼文化事業推進室長	大岩伸喜	観光振興課長	杉山麻里
	日本遺産課長	草加浩一		
	農政水産課長	岡村 巧		
審査記録	次のとおり			

午前 9時30分 開会

○山本委員長 皆さん、おはようございます。

本日の出席者は7名でございます。定足数に達しておりますので、総務産業委員会を開会いたします。

本日は、報告事項がございませんので、所管事務調査から入らせていただきます。

***** 農林水産業についての調査研究 *****

まず最初に、農林水産業についての調査研究をいたします。

発言のある委員の発言を許可いたします。

○森本委員 おはようございます。里山未来創造事業について、15、16日に視察で新潟へ行ってきますので、備前市におきましても里海・里山ブランドとかもございまして、資料を出していただいておりますから少し説明をしていただければと思います。

○岡村農政水産課長 備前市里海・里山ブランド推進協議会でございますが、当市では40年近く前から日生町漁業協同組合様を中心とし、海のゆりかごアマモ場の再生活動が行われております。

高度成長期の垂直護岸の形成や、生活排水の流入などにより、540ヘクタールあったアマモ場が昭和60年には12ヘクタールまで減少しております。当時、漁師が魚の捕獲量の減少に伴いアマモ場の重要性に気づき、数名の漁師により僅かに残ったアマモから種を取ることから始め、底質の改善など試行錯誤を繰り返し活動を継続した結果、2015年には250ヘクタールまで回復のほうしております。現在では、研究者はもとより地元の中学生や県内高校生、消費者団体など多くの応援団と共に活動をしておるところでございます。

これらの活動が認められ、里海づくりのトップランナーとして各地から注目を浴びることとなりました。2016年6月、全国アマモサミットを備前市、当市で開催のほうしております。このアマモサミットを契機に資源を生かした持続可能なまちづくりの推進を目標とした備前市里海・里山ブランド推進協議会が、2017年2月に設立のほうされております。

また、このブランド推進協議会の中では令和4年度の事業ですが、里海部会、それから里山部会、ブランド商品部会、この3つの部会をつくり、様々な部会ごとで活動のほうをしておるところでございます。

里海部会ですが、先ほど申しましたアマモの関係の事業をこちらの里海部会のほうで行っております。それから、里山部会ではオリーブプロジェクトを行っております。それから、ブランド商品部会ではブランドの商品開発プロジェクトということで、チヌの活用についてこの部会の中で様々な活動をしておるところでございます。

また、このブランド商品部会の中ではオリーブを使った地ビールの試作など、令和4年度につきましては行ってきたところでございます。

そのほかに、南宇治中学校の修学旅行の受入れ、それから国際ボランティア学生協会IVUS

Aの受入れ、長野県の上伊那農業高等学校の修学旅行の受入れ、それからフランス・アルカシオン湾地域の視察団の受入れ、浜田市議会行政視察の受入れ等々を行ったところでございます。

○森本委員 ありがとうございます。当初いろいろ立ち上がりのときから心配はしてたんですけど、担当課としては順序よく事業としては進んでいると見られているということでもよろしいでしょうか。

○岡村農政水産課長 事業としてはスムーズに進んでいるのではないかなと担当課のほうでは考えておるところでございます。

○森本委員 里海、里山とで区別した場合、里海のほうはいろいろされているとは思いますが、里山のほうが少し里海と比べて弱いのではないかなってふうに思ってるんですけど、今年新潟のほうも里山のほうの関係で行かせていただくかとは思ってるんですけど、今後の取組として何か新しいことを考えてるというのはあるのでしょうか。何となく備前市里海・里山といっても日生地域だけに限られているようなところもあったりして、危惧はしてるんですけど。

○岡村農政水産課長 今委員から御指摘がございましたように、里海・里山ブランド推進協議会の中では海をメインに今までは実際には動いていたのではないかなと思われませんが、今年の専門委員会等々でも委員の皆様の方から今度は山に関するものもしっかり備前市としてもやっていかんといけんのではないかというような御意見もいただきまして、今年度は里山部会ということでアカマツの再生事業に里山部会としても関わっていかうというようなことを計画しております。

また、南方の森林公園、これ閑谷学校まで続いておりますので、こういった森林公園も何か有効的に活用できないかというような形で、令和5年度につきましてはそういった部分をしっかり行っていかうということで計画をしているところでございます。

また、里山部会というよりも、もう里山に関しては伊部のつながりの森実行委員会さんがやっています事業だとか、それから伊部の区有林会、それから伊部の緑の少年隊、びぜん緑の少年隊の皆様が森林に関するいろんな体験活動等々を従来からされておりますので、こういったところにもしっかり目を向けて、今後のそういった里山づくりにつなげていけたらなと考えておるところでございます。

○森本委員 全国的に熊の騒動があって、里山に関しては今すごく注目をされてると思うんです。兵庫県のほうも割と先進的に取り組まれてて、有害鳥獣に関しても大学の先生がいろんな講座を開かれて、熊はあれですけども、そういう管理をしてるみたいな講義もされてるとお伺いしました。

その点も併せてですけども、なかなか森林の活用からブランド化、商品の。里山を充実させて、先ほどもありましたのにブランド化をしてこれだっていうものをつくって行って、活性化をさせていく必要があるのかなあとは思いますが、その点に関してはまだまだもうこれからの話なんですかね。アカマツの再生とかという、そういう地域的なものをまず整備してから、それか

ら取り組もうという考え方でよかったですかね。

○岡村農政水産課長 そのような形になってくるとはと思いますが、今まで取り組んだ中で頭島のオリーブプロジェクト、これはミカン畑の耕作放棄地対策としてオリーブの産地化を図ろうということで最初スタートをしております。このオリーブ、まだ実を収穫してオリーブオイルを搾るところまではいっておりませんが、剪定枝なんかを使いましたスプーンだとかボールペン等々の開発というたらいいですかね、そういった部分も行っておるところではございます。

○森本委員 新潟のほうの事例をネットで調べさせてもらったとき、地域を巻き込んでされている部分もあったりするんですけど、今現在の状況としては専門部会の方々が中心になってやるだけで、それ以上の広がりとかはあるんですかね、実際のところ。吉永のほうも地域おこし協力隊の方がいろいろされてたりとか過去にはお聞きはしてるんですけども、地域として取り組んでいかないと持続っていうの厳しいかなっていうふうに思ったりもしてるんですけど、その点はいかがなものでしょうか。

○岡村農政水産課長 まさに協議会のメンバーだけではそういった活動を続けていくというのは非常に困難です。地域の方をしっかりと巻き込んで一緒に里山づくりというのをやっていかないと駄目だなというところを感じておるところでございます。

ですから、例えば先ほどありましたアカマツの再生事業につきましては、伊部の区有林会さんだとか、伊部地区の方、それから片上地区の方、こういった方々も巻き込みながらそういった里山づくりを行って行けたらと考えておるところでございます。

○山本委員長 ほかにこの件に関しまして。

○尾川委員 ひなせうみラボ事業計画案の中で、前置きで渚の交番事業を昨年度で終えて極めて厳しい経営環境に置かれている状況ですということ詳しく説明してほしい。

というのが、レストランもうやめたと、今どねえなっとなかよう知らんのじゃけど、勤めとった人に知った者がおって、退職したというふうな話を聞いとるんで、この辺市としてもう、補助金が出る間は何とかいけるけど、これからどうするのかなあと思うて。その辺市が出さにゃいけんのじゃねえかなあという感じがするけど、そういう辺のことを大事なところを押さえてもらえたらと思う。いろいろ事業やるというたって金がなかったらなあ。今オリーブの話聞いてもまだまだオイルは絞れん、オリーブというたら牛窓を思い出して、あそこらあたりもう搾ったり、オリーブ油を売ったり、いろんな化粧品を売ったりしよるけど、そこら辺はどういうふうに市として考えてこれを報告しよんかなあ、それが一番気になるところです。

里海ができんのに里山をするというて、広げることはええけど、どうやって、金どうすんですかということをもっとよう詰めて、どこまで市として関わり合いを持っていきよんかなあというのが、全くもう第三的に、もう任せらんじゃと。その辺経営ということを教えてもらいたい。

○岡村農政水産課長 ひなせうみラボでございますが、こちらうみラボのほうは基本的には一社さんがされとることですんで、そのあたりの細かい部分というのは私のほうから申し上げること

はできませんが、例えばですが、2階のレストランにつきましては今月11月頃に兵庫県の学校給食を手がけている企業さんが入るというようにお聞きはしておるところでございます。

それから、ひなせうみラボですが、年間約8万人の来場者が来られておることとお聞きしておりますので、そういったところで事業展開をされとるというふうに認識しておるところでございます。

○尾川委員 具体的に言うたら補助金は今あっちゃこっちゃ切りあげとんじゃけど、どういうふうに渚の交番事業というんがな。裏判打つとんのは備前市が打つとんじゃと思う。誰でもかれでもやらしゃあへんと思うけど、結局3年間か4年間か補助金もろて、その後自立できるというのはなかなか難しいと思うよ。そういうもんはどこまで関わり合い持って、全く独立したもんかどうか、市と関係ねえんならええけど、結局は市が面倒見にゃいけんようなことになってくるんじゃねえんか。ここへ厳しい経営環境に置かれている状況ですというて他人事みたいに書いとるけど、じゃあどこまで市がこれを。これはあくまで一社のみんなでびぜんの事業計画書であって、その内容で報告されとんじゃとは思うけど、どこまで備前市として、もう少し踏み込んで教えてほしい。

それと、経営状況も分からんが、何ぼ厳しいんならと。何ぼぐれえ足らんということをちゃんと具体的に言うてくれにゃあ、どこまで関わり合い持って備前市として議決せにゃいけんのかとか、執行部が案を出すんじゃろうけど、もうちょっと明確に説明してもらわんと。ただあれしたらええ、これしたらええ、里海と里山じゃというていうて、そねえ広げるばあしたって人もおらんし、資金もねえし、やるやるというたってでけへんと思うけどな、わしは。

○岡村農政水産課長 先ほど、尾川委員が言われましたうみラボに関する補助金は、今年度もう既に財団からの補助金は終わっております。ですから、もう一社さんのほうで運営を自己資金というか、そういった資金で運用しているところでございます。ただ、市としても全く関わらないというような形では当然ないかと思っておりますので、まさに海の体験施設というたらいいですかね、そういった部分で教育旅行の誘致をしたり、そういった部分で応援できる部分は一緒にやっついていけないのかなというところは感じておるところでございます。

それから、決算の状況ですが、申し訳ないですけど、そういった資料を今日お持ちしてないんで、その部分に関しては回答しかねるところでございます。

○尾川委員 決算も補助金も出してねえ、市は関わりがないのに出せ、出せというのじゃいけんと思う。何もせんのに文句だけ言いよったら誰も相手してもらえんと思う。

グラウンドゴルフ場をあそこへせえ、こっちせえというてあれだけわあわあ言うて。じゃから、どっちかというて市が主体性を持ってやりよるような感じがしとったわけじゃ。あれじゃおえん、これじゃおえんというて、ああせえ、こうせえというて、そういうふうな状況をベースにして考えとるから、他人行儀で一切関わりがないんじゃったら別にこんなもん議論することはねえと思うんじゃ。そこらあたりを明確にしてもろて、どういうふうにするんかというのも、だ

んだん距離感を空けよんか、それとももうこのままで平行線取っていくんかというふうなことを。ほっとってええんかどうかというのもあるし、その辺の考え方を明確にしてもらわんと、話聞いたってどうしようもねえんじゃねえ。日生のことができよらんのに何で吉永じゃ、伊部の話せにゃいけんのかと思うてな。それをここへ一社に言うたってそりゃせんよ。一社が力いっぺえ人材がおらんのじゃろうと思うからな。それを吉永の山や閑谷の山せえ、伊部の山せえ、片上の山せえというたって、そんなこと手が出せるわけねえと思う、わしは。

○岡村農政水産課長 今委員のから言われてます一社さんがやっとうみラボのお話と、それから里海・里山ブランド推進協議会はまた別の話になりますんで、里山のことは里海・里山ブランド推進協議会の中でいろんな事業を行っていくというところで考えていただけたらと思います。

○尾川委員 わしらそういう理解しとるわけじゃ。一社のみんなのびぜんというんがメインはそういうことである、活動報告書を見たら分かるけど。それプラスアルファで里山とかブランド部会とか、商品部会とか、要するにその範囲を広げることによって事業計画を出して補助金も出そうとしとんか、市として。里海だけじゃあ出しませんよというて、それに対しての対応、動きよんかなという推察をわしは勝手に、みんな知らんで、ほかの者は。伊部の山じゃ、吉永の山じゃというて、そういう理屈つけて補助金を出していこうとしとんかというふうに勝手に取るわけじゃ。そこで、関わり合いがあるんかなと思うて、今説明を受けて。うみラボとあれとは違うんじゃ言われたら、ほなもうそんな話はせえでもええじゃねえかということのをわしは言いとうなるんじゃけな。みんな知らんで、ほかの人は。

○藪内委員 尾川委員とほとんど重複するけど、どこが主体かというのが本当よう分かんですな。これ、独立したもんですからそこがいろいろ考えて一生懸命やられて、その後も継続してそれをやられるというのが本来の姿であって。前に寒河の第三の居場所ですか、同じ日本財団さんにいろいろ資金を頂いて。あのときでも、尾川委員がそのときも言われたけど、3年間はいろいろ資金提供があってやれると。その後、結局は市がせにゃあかんのじゃないんかと、そういうことを皆さん思うので、そうじゃなく本来は3年間、その間で何とか乗せて、そっからは自力でやっていく、それが望ましいですけど、皆さん一生懸命やってくれとんですよ、どちらの事業もね。もうそれぞれ知恵を出し、いろんなことしてやってくれとんですけど、だけど変に、変にいうたらおかしですな。どっからどこまでか知らんけど、市が関わってくるし、全くほな突き放すわけでもない。その辺の力関係というか何か分かんですけど。

だけど、さっきのレストランの一個説明にしてももう大分前からやまっとると。次はあそこが入るじゃ、ここが入るじゃ、いろんな話が出ましたけど、結局はいまだ全然ね。本当はあんないい場所で、あんなロケーションで、あんな環境だからすぐにでもやりたいという人が出てきそうだし、それはそんだけの魅力を皆さんが感じてないのか。

それと、さっきのグラウンドゴルフ場にしてもそうですよ。全然話が進まない。こっち側の駐車場のほうとかいろんなことを言われてた。

あともう一個、最後の問題が車を結構上に止めて、階段を使って降りていかないといけない。そこでお年寄りの方は止まって帰ったりするんですね、反対側にスロープがあって、建物の裏へ回っていけば行けるけど、普通のところをぱっと行って、ぱっと降りられているんなことができないといけない、何かそこまでがすごく遠く感じる。だから、何かちぐはぐで、もうせつかくの環境であれだけの施設をつくっていただいたのに使い切れてないというか。ほんで、市もどこまで関わるんか、もう一回その辺の立場というか、立ち位置を説明していただきたいです。

○岡村農政水産課長 先ほど、委員から言われましたように、最初の3年間というのは補助金が入って建設、それから運営等もされておったと思います。基本的にはこの3年間が終わればもう独立して一社さんが事業展開をどんどん進めていくというような形になっておると思います。

ただ、そういった中で市のほうも何も一緒にそこにしないのかという話になれば、先ほどの里海・里山ブランド推進協議会、こういった中でも様々な関わりがございます。そういった中で、先ほども御説明いたしました、修学旅行の誘致だとか、当然修学旅行が備前市に生徒さん来られた場合、うみラボさんだけで修学旅行を受入れして対応するというのは人員的にも不可能だと思います。そういった部分で市のほうも手伝いというか、一緒になってそういったことをやっておるところではございますが、ただ市のほうで資金的に何か補助金を打って何かやっていくのかというお話になれば、その部分は一社さんが独立、自立して経営をして事業のほうをやっていますんで、その部分に関してはこれからもそういう形で進んでいくと考えております。

○藪内委員 今、3年間は補助が出て、それ以後は自立、独立して頑張ってくださいということですけど、途中でも意見が出ましたけど、なかなか人員的にも厳しいと。ということは、最初からこの計画に無理があるのかなあと。それ、人員的に難しい、資金もショートするっていうことは、それがいい計画を立てて一生懸命やっても、もうすごく一生懸命やとられるんですよ。でも、それがなかなか成立しないというのはどこか無理があるとか、お互いに関わり合うのであれば言いにくいことも、市の側も言いにくいことを言って、そこ駄目じゃないか、これいいんじゃないですかと。一社さんのほうもこれをやりたいんですと、ぜひやりたいと、修学旅行とかどんどん受け入れたいと、旅行会社とかと組んでやっているんだと、そういう話合いを本当きれいごとといったら失礼ですけど、そういうことじゃなくもっと詰めてけんかになるぐらいの話合いをされてやってください、やらせてくださいみたいな。きれいごとですけど、でもそれぐらいのことをやっていかないとこの厳しい世の中でなかなか、本当に厳しいと思うんで、それインバウンドだ、いろんなことを言うて海外からも来られますけど、こういうところはまず国内のニーズを掘り起こしてというか、お客様を獲得していかないといけないんで、もうちょっと突っ込んだ話合いとかはどうでしょうかね。

○岡村農政水産課長 もう少し入り込んだ話合いというところでございますけど、もちろん市として言わなければならないことは当然私どものほうもこれからも言うてまいりますし、ただどこまでという部分が非常に難しいところもあるかとは思いますが、研究をさせていただいたらと

思います。

○藪内委員 本当積極的によろしくお願いします。

先ほど尾川委員も言われたように、もう市はあまり関わらないというのであれば、それは本当話合いする意味もないでしょうし、それはもうノータッチならノータッチで、その先はどうなるかは一社さん次第みたいなことになりますけど、とにかく備前市を盛り上げていかなきゃいけないんで、よろしくお願いします。

○尾川委員 また戻るような話じゃけど、あんたに言よんじゃねえよ、文句を。ただ、担当で報告しよるから仕方ねえ、言わせてもらいよんじゃけど、例えばこのうみラボの問題も見たら出前授業というてあるわ。鹿久居に宿泊施設があるが、あれ何とかという設備が……。

〔「まほろば」と呼ぶ者あり〕

その辺の調整とか、わし言いてえのは最初からこういうのがあってするというて閑谷学校はあるわなあ。あっちやこ修学旅行招待するというたって大変じゃなあと思うて。今さら言わあでもええが言うけど。何を言よるかというたら閑谷学校とか、鹿久居島の施設とか、こういうもんをもう各自が親分じゃなしに連携してやらんと、もう限られとんじゃ、見たら来てくれる人は。仕方なし小学生やこうは校長に頼みよん、個人的に頼んで来てくれ言よんか、ここへも行くのもええんじゃけど、わしら言うのは岡山へでもちいたあ行かせてやってくれえと。小学生と一緒にバスに乗って動くようなことはもう卒業してありやせんものんじゃと。もう少しいろんなところを見せちゃってくれえとわしは先生に言うんじゃ。あんたらの立場からしたらみんなでびぜんというか、何かそういう施設を使ええと。出前授業あそこへ行けえというふうに働きかけすると思うんよ、当然。鹿久居島の施設だっけちいたあ使うたれえ、備前市内の生徒ぐれえは使ええというふうな話になってくると思う。その辺連携してもろて、本当にあそこらレストランやこ高えんか、安いんか、何ぼもうけようと思うて来とんか。その辺自立するという気持ちがなかったらな。わしら見とって備前市が補助、何とか財団が補助を最初にしよって何とかなつとると。今度はそれがのうなつたらもう手引くということと思う。だから、その代わりに備前市が部屋代とかただにするとかということのを期待してきとんじゃと思う。その辺もわしらが偉そうに言わあでもええけど、本当、設備的には中身はええし、何でかなあと思うようなところでも続かんと。

吉永の八塔寺、あそこだっけ安うしても来てくれんという、何かもうちょっと考えて本当に起業というか、創業というか、そういう人のクリエートするというか、やらんと補助金でつたつてもう限界、いつまでもできんものんじゃからなあ。備前市としてのスタンスをもうちょっときちつとして、どうしていくかということのを維持していく。まだ決まってねえような話しじゃけえ、決まっとるような話を聞いたからもう入るんかなと思ひよったけど、どうも決まってねえようなし、また空き家じゃ。お客が来たら何な店閉まっとるがなというていうたらもう来んが、お客さんが。お客さんが結構出入りしよるなというたら続いていこうとかかというふうな、また口コミで一緒に行こうじゃねえかとかかということになると思う。そういう連携したり、そういう自立す

る力を持った店というか、そういう起業者を呼んで来るような努力せなんだら。あんたは一社やと、一社がしょんじゃ言うてしもうたらもうわしらがとやかく言うことじゃねえんじゃけどな。

最後に、オリーブなんか搾るというたってこれ何年しようりゃ。商品にしたって売れるか売れんか分からへんのやからなあ。一遍勉強に行ってみられえ、どねえなんか。あれだけオリーブ園で服部興業じゃから大地主じゃわ、牛窓でいうたら。そういうことをもうちょっと踏み込んで指導してあげんと、協力隊できて何年か補助もらえるから来りゃええわと。あとどねえなんか知らんで、今オリーブしよる人な。そういう要らんこっちゃけど、どこまで備前市が関わり合い持って文句言わせてもらえるかということなん。それだったら、もうやめてくれえというて、もうややこしい話聞かんほうがええ。

○岡村農政水産課長 連携をしっかりと取らせていただきたいと思います。

○内田副委員長 昨日実はそこへ行ってきました。たまたま昨日はワークショップで大勢小学生の子供さんですか、お母さん方も大勢入り切れないぐらいワークショップされておりましたけど。あそこ土産物売場が1階で、2階がレストランです。私は食べに行ったことはないですけど、これは多分お金が落ちる場所じゃないなあと思って帰ってきました。せっかく行ったから何か買ってこうかなあということでアナゴ1つ買って帰ってきたんですけど、なかなかあそこへ金を落とすという、魅力ある、景色はいいですけどね。それと、ワークショップであれば当然人は来るけど、親子で来られることが多いでしょうから、なかなかお金を落とすことは少ないかなあ。あその運営は結局レストランの賃貸料をもらうんか、あるいは土産物売場、直営か、あるいはテナント入っとんか、あるいはワークショップをすればあその部屋代もらっとんかなあと思しながら、なかなか経営的には厳しい状況の場所かなあというふうに私は感じてきました。

たまたま昨日、鉄工所の跡地を貸してレストランをしてるというのを山陽新聞で半年ほど前見た記憶ありますんで、そこへ行ってみようかなと思って、ちょうど昨日は日曜日で寒かったから動きはどんなかなと思しながらと私1時間おったんですけど、4組のお客さんが来られて七、八人食事されてました。レストランのメニューが2種類で、ハヤシライスと焼きガレイの2種類ですけど、そちらのほうはむしろお金を落としやすいかなあと思しながら、しかしあその運営本当実際どういう思いでしとんかなあという、私はそういう思いで帰ったんです。ですから、もし市のほうから応援するんであれば大分中に入り込んでしていかないと難しいかなあという感想を持って昨日帰ってきました。

○森本委員 これ、ひなせうみラボをつくるときには市もちろん関わって、議会も議決して、あのときはもう何回も言いますが、附帯決議で補助金はもう出さないと、頑張ってもらおうというふうにして議会のほうも賛成をしたので、一応賛成して始まった事業なので、議会としても。市のほうも立ち上がりのときは関わっていたので、もちろん一社がされててもう頑張ってもらおうのが一番ですけど、先ほども教育旅行の誘致とか、協力してますというお話があったので、しっかりこれからは協力できる部分はしっかり協力していただいて、議会としても認めた以上ここで

もう駄目になりましたっていうよりはしっかり頭島大橋ができて渡った先が何もないからということであそこを何とかしようということが始まった事業だというふうに私は思っているのですが、皆さんに来ていただくように市のほうも大変でしょうけど、できる限り協力できるところは協力していただいて、盛り上げていくのが今一番ベストだと思うんです。

ただ、補助金に関しては議会で議決して、通すときにそういう話はしたので、持ち出してまで応援していくというたらこの事業全国調べたら結構駄目になった施設もたくさんあるというあのおときも大分議論が出て、本当にここへ持ってきていいのかという話もあったと思うので、でももう議決してしまったので、通してしまっただけからは成功する方向で行っていただきたいと思えますので、これは私の意見です。頑張ってください。よろしくお願いいたします。

○松本委員 うみラボをつくるときに、さっき地域を巻き込むとかいろいろ話が出ましたが、里海・里山づくりで。私が聞いてた3年か4年前のつくる話のときはもうあんなが成立するわけない。一元客は来る、しかし景観はいいけど、ああいうところにつくっても存続しないと、3年財団が引いたら終わると、そういう話がもうずっとちまたでされてたわけですよ。案の定何となくそういうふうになってると。一回総合的に総括してほしいと思う。どうしてこうなったんかとか、その辺の分析はもうちょっと必要じゃないかなと。

そういうことも関連しますけど、里海・里山部会とかブランド部会とか、これメンバーを私は知りたい、どういう方々で構成されてるんか。漁協が入ってるというのは分かるんですけどね。

○岡村農政水産課長 こちらの里海・里山ブランド推進協議会の委員さんですが、一般社団法人備前観光協会の会長さん、それから備前市自治会連絡協議会の会長さん、それから伊里漁協の組合長、日生町漁協の専務理事、晴れの国おかやま農業協同組合備前支店の経済課長さん、それから美作東備森林組合の支所長さん、あと市の総合政策部長と産業部長と教育振興部長で構成されております。

○松本委員 例えば、もう今広い分野というたらこれはおかしいですけど、里海・里山ですから仕方ないというたら怒られる。個別の課題というたら例えば里海について美作とかもろもろの、そういうところはあんまり関係ないなと思うんですけど。このことについて問題を整理せんといけんと思うんですけど、第1次産業として水産業とか、特に日生のカキも含めてですけど、カキとか魚を捕ることとかについて、これは漁協が中心になるから私たちあんまり文句言えないですけど、見てたらいろんな問題を、私自身ですよ、感じたり、ちまたのうわさを聞いたり、話したりしたらいろいろ出されるんです。

例えば日生の海でカキをし出してもう漁師が、もう要はカキでもうけりゃええと、魚なんかええと。今のように油代が上がって収穫量が少ない。これやっとなんとか、そういう問題だとか、それから後継者どうするんか、これカキもそうですけど、もう漁協なんか魚を捕ることに対して例えば一昔前は淡路島にサワラを捕りに行ったりとか、もろもろいろんなことをしてきましたけど、もう最近は底引きをちょろっとやるだけで、それも何軒かが行ってるという状態。これも世

代がもう替わったらもうなくなる。それから、カキについても後継者がいない。そういう問題がある。だから、将来どういう展望を持つかということに対して非常にこれは大きな問題だと思うんですよ。だから、この問題というのはただ現場、今起こっている現実をどうするかとかということだけじゃなしに、そこを考えないと産業としてこれからどうやっていくかということについては根本的なことを忘れてるんじゃないかなという気がすんですよ。

それから、漁業について言いますと、私も魚釣りをしますけど、もう30年、40年まで、一昔前、日生は漁師の町とか、ああいうところで捕れる魚というのはほとんどいないですよ。今放流魚ばかりですよ。そういう中でチヌがいっぱい湧き過ぎてチヌ対策をせんといけんとか、そういう話になってますけどね。

それで、何のために、アマモのことを物すごくPR、宣伝しますが、例えばアマモを植えてどれだけ効果があったかということについて、これまだそういう総括する時期じゃないかも分かりませんが、これ本当によかったん、産卵場として稚魚が育って漁獲量が増えるとか、そういう効果があったかということをもう一回振り返る必要があると思うんですよ。

例えば、日生の漁師の方、昔アマモの再生を一生懸命やってた。もうこれ二、三十年前から青年部ですか、中心にアマモ再生をやってきた坪網漁師ですけど、例えばもうここ5年、10年、坪網へ入る魚はもうほとんど増えてない。魚種が増えたんか、ほとんど増えてない。我々何のためにアマモを植えてきたんか、そういう話もあるわけですよ。その方は今やめてますが、この方は一生懸命先頭になってやってきた方ですよ。

確かに子供たちや教育的な観点でアマモを植えてますが、私もよく見ますが、種を採取したり、子供がね。アマモは再生する、これいつも指摘されてきたことですが、一年草ですね。台風季節になったら根が地についてないから全部流れていきますね。アマモが流れてきたら、そらもう風向きで日生の海岸なんかほとんどアマモだらけですよ。アマモに混じって海ごみがある。これに対して私漁協に何回か、話長うなってもいいですか。

○山本委員長 松本委員、何が聞きたいのか端的に質問していただけます。

○松本委員 背景を私もうちょっと理解してほしいと思うんですよ。

○山本委員長 意見を述べてらっしゃるんですか。

○松本委員 そうですよ。だから、私そういう地域に根差すという、巻き込むとかなんとかというけど、そこら辺の総括というか、振り返ることをもう一回すべきじゃないかなと思う。

と同時に、これからこういう産業を発展させていくか、第1次産業、漁業ですけどね。これ、もうちょっと深く話ししないと小手先だけの対策で終わってしまうんじゃないかなと私は思うんです。さっき言った後継者の問題とかも何点か上げましたが、そのことについて話ししてほしいと思うんですね。

それから、うみラボについてはもう私もこれ終わつとるというたらおかしいけど、ああいうところに確かにロケーションとかもろもろいいですけど、単なる景観のいい食堂というたらおかし

いけど、それで値段が高いとかもろもろ言いますよ。だけど、一元客で一回来て終わりですよ。それと、日生には本土のほうにいっぱい来ますわ、今。ああいうところでないとぼつと頭島のほうにああいう食堂ができたということで私無理があるんじゃないかなあと思うんですよ。これからそれについてどうするかということについてはうみラボとか、まほろぼとか、これ市が関与していったんで何となく泥沼へ入っていくというか、そういう気がして仕方ないんです。意見ですけど、感想だけ述べておきます。

○尾川委員 参考までに、分かるかどうかなあ。備前市のうみラボというか、渚の交番事業で、真庭市が取り組んだらと思うんじや。あれもまだ3年はたってねえと思うけど、備前市の後で取り組んだらどういうふうになっとんか、また今度どのようにしようかというのを。今、松本委員が言われた、もうそれは議会でも議論したんじや。3年間は補助金が何億円というて出るから、それ以上の表現はやめるけど、仕方ねえなというふうな。要するに備前市がバックアップせなんだらその事業は進まんということで、今になって言よるだけで、そのときはいろいろ進める人がおったりして、そういういきさつがあつて、結果的にどういうふうにしていくかというたつてあのままほつとってまた空き家にしてしまうんか、そんなことせんようにせにゃあいけまあとというのがこっち、そうかというて何ぼでも金つぎ込みやええというもので、五味の市もあるし、そこでそういうものをしたつてもう限界があるとみんな指摘しよつたんよ、やつたんじや。そやけども、日本財団でこういう補助を受けてやつて、事業をやつて活性化するというので取り組んだん。一社も頑張るといふことじゃつたと思うんじや、わしは。今さらそないああじゃ、こうじゃ言うてもおえんけど、とにかくどこまでずぶずぶになっていくんかというのを明確にしてもらわんといけんという心配と、それから真庭市がどうなつとんか。全国でもいろいろあると思う、事例が。成功しとるところもあるし、失敗しとるところあると思う。その辺を参考にしながら備前市としてのスタンスを明確にしてもらいたいというのがこっちの願いじやな。そんなところで、何かあつたら意見ちょうでえ。真庭市のこと知つとりやあれじゃし。

○岡村農政水産課長 真庭市さんの渚の交番のほう、まだ私現地を伺っておりません。また、機会を持って担当者の方の御意見等々を聞きながら調査のほうをさせていただけたらと思います。

○山本委員長 里海・里山ブランド、ひなせうみラボについてはよろしいですか。

○石原委員 先ほど、課長の答弁でオリーブについてございましたけれど、いま一度オリーブを植えられとる規模といいますか、本数というか、それから成長度合いとか、そういうようなところをいま一度お教えいただければ。

○岡村農政水産課長 こちらのオリーブプロジェクトでございますが、頭島の土地の所有者16名から29筆、2万2,770平米を賃貸借で契約して、オリーブの圃場として整備のほうを平成29年から行いました。植栽本数でございますが、平成31年が156本、令和2年が30本、令和3年度が100本、令和4年度が172本で、計458本を植えております。

収穫ですが、当初は3年、4年ぐらいで実が取れるというようなことをお聞きしとつたんです

が、まだ今の段階ではまだ実が収穫できてオリーブオイルを搾るところまでは生育してないというふうにお聞きしております。

○石原委員 2万2,770平米ということですからかなり広大な面積で土地をお借りして、計458本現時点で言われたけど、今後も毎年度次々植栽を進めていく、この458本でどれぐらいスペースが今もう埋まっとんか、余りがどれぐらいあるのか、土地の状況は分かりませんが、植栽については今後についてはどうでしょうか。

○岡村農政水産課長 オリーブされとる方が一番最初は地域おこし協力隊ということで3年間地域おこしの中でこういった活動をしました。今、その地域おこしだった方が一農業者ということで、農業次世代という国の制度を使いながら一農業者としてオリーブを今育てておるところでございます。ですから、これから先あとどれぐらいの本数を植えるかということになれば、またお尋ねをしないとそのあたりは把握してないですが、ただ一人でこれだけの面積、これだけの本数を管理していくのには厳しいような状況ではないかなというのをお聞きしました。

○石原委員 オリーブも海辺で日当たりもいいようなところによくよく、さっき牛窓もありましたけれども、植えられる、果樹といいますか、でしょうし、だけども実際に収穫して商品化のところまでいくと、それはかなり労力と手間とコストもかかるでしょうし、おいおい状況とかも、見通しからも遅れておるといようなお話もありましたので、そのあたりまた随時お聞かせいただければと思います。

それから、里海と里山に関するプロジェクトに関してですけれども、平成31年2月の委員会資料でもございましたけれども、そうやってプロジェクトの取組の一つとして旧日生南小学校、こちらの利用に関しても交流の促進につながるような活動をというところも盛り込まれておったんですけれども、旧南日生小学校、こちらの里海、里山に関する活動の中でそのあたり現状、活用についてはいかがでしょうか。

○岡村農政水産課長 こちらの南小学校ですが、今この小学校のほうを国際ボランティア学生協会さん、IVUSAさんが年に2回頭島のほうに来ていただいております。そういった中で、この南小学校を拠点に活動のほうをしていただいております。

○石原委員 そのときの同じ資料の中に頭島総合センターがあって、こちらの施設をこの活動のプロジェクトの中で利用していきたいというところであったんですけど、こちらの頭島総合センターについてはいかがでしょうか。

○岡村農政水産課長 こちらの頭島の総合センターにつきましても、炊事場というたらいいですかね、そういった部分を学生のボランティアさん等々が来られたときに調理場として南小学校とそちらを使われておるところでございます。

○石原委員 同じく委員会資料ですけど、渚の交番プロジェクトに関して令和元年6月の4年余り前の総務産業委員会資料の中で10年間の収支計画、目安のものが示されておったんですけども、2028年までの。これも可能であればまた令和4年度あたりの収支などもたまたもし可能

であれば見てみたいなあというのものもあるんですけども。この中で、太陽光パネルの占有料で2021年度から支出されることが見込まれて、ずっと年間60万円。それから、収入のほうで太陽光発電の売電で2021年度以降毎年150万円売電でもって収入がなされる見込みが立てられておったけども、これ太陽光に関しては何か動きがあって見込みどおりなっとんかなあ。

○山本委員長 答弁できますか。

○石原委員 課長、これも併せて、さっき申し上げた2022年度のものも併せてまたお示しいただけたらなあと思います。

それから、たしかうみラボ整備に当たって第一義的な目的の中に海洋教育というのがかなり前面に出てきて、それもあつての渚の交番事業でしょうけれども、海洋教育ですからもう全国から例えばもう特に海のないような、さっきありましたけど、長野県とか、そういうようなところから例えば修学旅行であったり、研修であったり、大勢の子供さん、学生さんが来られる施設になっていくのかなあというのもあって、それから活動報告書の中にも令和4年度、確かにいろんな学校、大学、保育園、こども園さんなんかもありますけれども、そのあたりで誘致であったり、PRであったりということはこちらの本市の教育庁なんかとも連携がなされてというようなところは教育活動についてはしっかり取り組まれんとんかなあ。そのあたりどんなにか。

○岡村農政水産課長 こちら修学旅行でございますが、受入れ、そういった誘致の関係のお話はうちの里海・里山係の担当者、それから観光振興課の職員等々がそういった誘致のほうに行っております。また、受入れする際には教育長のほうも来ていただいて対応したというようなことでございます。

○石原委員 確かにすばらしいロケーションですし、反面海辺のそういった眺めのいい場所ってというのは日本中に存在するわけで、その中でぜひ日生へという厳しい面もあろうかと思えますけれど、積極的にPRなり図っていただいて、実際に来ていただければ本当によく言われる関係人口につながるのだとか、思い出の一つになるのだとか、期待されると思えますので、しっかり学生さん、若い世代の方の取組も。

それから、一つだけお願いですけど、せっかくの市内に整備された場所ですんで、今見ますと市内でも小学校でいきます日生西小学校さんが、令和4年度コロナもあって大変だったかもしれんですけど。せめて市内の小学校の子供たちあたりは日生にこんな眺めのいいところにこんな施設ができたんだの体験も含めて、海洋教育も含めて、機会があれば調整もいただいて市内の子供たちせめて1回ぐらいは行ったよなみたいなんがあったらうれしいかなあと思えますので、それもう意見としてとどめておいてください。お願いします。

○山本委員長 よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、耕作放棄地の活用について調査いたします。

質疑のある方の発言を許可いたします。

○松本委員 一般論で耕作放棄地が各地に見られるということはあるんですけど、市として何を考えてるのか、何かあったら教えてください。具体的にこういう問題提起して将来的にこういう構想を持ってるとか。

○岡村農政水産課長 耕作放棄地対策のまず一つとしましては、市のほうで農機具の貸出しをやっております。ハンマーナイフ等々の機械の貸出し、これをしっかり活用していただいて耕作放棄地にならないように管理ができるような体制を今整えておるところでございます。

それから、今年度より下限面積が撤廃されております。今までですと地区によっては2反以上の農地を持っていないと取得できないというような要件がございましたが、今その要件がもうなくなったことにより、どなたでも農地を持てるというような形になっておりますので、家庭菜園、それから小規模でも農業をやりたいというような方等々がおられましても、その下限面積の撤廃により農地の取得ができるというような形になっておりますので、ぜひそれを活用していただけたらというところでございます。

○松本委員 例えばこれ別に農地を取得しなくても、畑を貸してくれる場合、草が生えて困るから、ほかの人に迷惑になるから使ってくださいという方々が割とおるんですけど、こういう土地の利用といいますか、そういう促進策について考えてますか。

○岡村農政水産課長 農地の貸し借りにつきましては、農地法の3条で賃貸借契約を結んで農地を借りることができますので、農業委員会を通じてそういった手続を取っていただけたらと思います。

○松本委員 私、今畑してますけど、直接土地の所有者に対して使わせてもらえると、もう私たちも草で迷惑にならんように使ってほしいんですというて言うんですけど、今のそういうややこしい許可が要るというのは知らなかったけど、本当に要るんですか。

○岡村農政水産課長 農地の貸し借りにつきましては、利用権設定というのが要るような形になります。

○松本委員 そういう手続を取ってる方がおるんか分かりませんが、ちまたではそういうことがいっぱいあるんじゃないですか。

○岡村農政水産課長 ちょっとその部分は、ちまたのほうは私も把握はできておりませんが、農地を借りる場合は利用権設定というような形をお願いできたらと思います。

○松本委員 私、いつか一般質問で、今回も次回しようかなと思いつつながら悶々としているんですけど、一般の人たちが例えば畑でちょっとしたいなあと。特に、リタイア組がぼうっとしとるなら野菜でも作ろうかなとか、そういう要求というのは一般的にはあると思うんですけど、このときに一つは鳥獣被害ですね。今柵をつくるのに一定補助金は出てとると聞いてるんですけど、そういう鳥獣被害ともう一つは水の問題ですね。どこでも天候によって水を運ばないとけんとか、その問題があると思うんですけど、さらに言えば野菜づくりしたことないから農業指導員じゃないですけど、そういうことを指導してくれるような教育の場なんかがあつて積極的に、今割と広

い範囲で遊休地がいっぱいありますけど、そこを市の政策として1次産業、特にこういう畑づくり、庶民が畑づくりに参加できるようなPRも含めてどんどん一つの運動として、運動というたらおかしいですけど、そういうことを取り組んだらどうかなと常々僕は思ってるんですけど、どうでしょうか、その辺。

自主的に生まれるんじゃないしに市がイニシア取ってやってほしい。例えば中学校区に1個とか、できれば小学校区に1個とか、一定エリアのね。それぐらいの土地というのは何となく備前市見た場合、割とあると思うんです、そういう土地が一定地域に。そういうところを個人が交渉するというのは難しいし、備前市がこういうエリアを遊休地として皆さん方利用してくださいと、耕作希望者は応募してくださいとか、そういう政策を持ってもいいと思うんですけど、どうでしょうか。

○山本委員長 すいません、松本委員、市のほうが答弁することですけど、農地法の3条、4条、5条がありますから、なかなか答弁しにくいんじゃないかと思うんですけど。どうでしょうか。

○岡村農政水産課長 まず、先ほどの農地の取得ですが、公用で供する場合には市のほうが農地を持てるというような形にはなっております。地方公共団体が開設する市民農園、こういった場合は市が農地を持てるというような形には農地法の中ではなっております。

近隣の市町の状況ですが、例えばお隣の瀬戸内市さん、これ一般社団法人瀬戸内市振興公社さんがその農地の貸し借り等々をやっておるところはございます。1区画が5,000円から3,000円ぐらいですね。ここは公社さんが管理というたらいいんですかね、そういった部分もされとんで、こういった費用を取りながら運営をしとるというような形ではないかなと思います。

それから、あと近隣ですと隣の和気町さんですかね。和気町さんも和気町の藤野のほうに市民農園というような形でされとるというのは認識しとんですが、本市につきましては先ほど松本委員に御説明したように、まず利用権設定でどなたでも借りられるような形にはなっておりますんで、そういった部分を活用していただきたいというのはございます。

○松本委員 だから、手続の問題として法的な手続をあとはすればいいと思うんですけど、今僕も何件か知ってますけど、日生とか吉永とかいろんなことで個人が、集団的にこのエリアの農地でいろんな野菜を作ったり、米作りにも挑戦したりとかやって、そこでできたものについてはお裾分けとかしながらやってるとか、そういうことを興味持って全国的に調べたらいろんな取組やっていますわ。例えば赤穂なんかだってこの前載ってたんですけど、私たちは耕す係、私たちは作付の係、それから収穫の係、水やりの係、それぞれ任務分担して、それで集団的にできたらできたものについてはスーパーに一定時期納めるとか、そういうことをやったりとか、僕が思ってるのは日生なんかで聞くのは地産地消を進めて、できれば月に一回ぐらい給食センターに無農薬野菜ですか、そういうものを納めたいと、食べてほしいと。無農薬野菜というか、オーガニックの運動として取り組んでる方々もいます。そういうことをサポートするというたらおかしいけど、

地域的に備前市全体につくっていくようなPRといたしますか、宣伝といたしますか、そういうことは市が一つの政策として持ってもいいんじゃないかなと常々願望ですけど、持ってますが、どうでしょうか。

○岡村農政水産課長 先ほどの話にございましたように、サポートをする団体さんがおられればそういった耕作放棄地を活用してそういった事業が行えるんじゃないかなと思うんですが、市が直接市民農園を開設してやった場合、管理の話だとか、いろんな部分で市はこれはやってくれんのかというような話はほかの、他の自治体で市民農園を持っておるところにお聞きしたらある一定というか、お金を払っとんだからここまでは市でやってくれんのかというような話が出たりというような話もお聞きしておりますんで、そのあたりで市民農園に関しましてはいろいろこれから研究のほうをさせていただけたらと思います。

○松本委員 私は、市が買い取るとか、管理するとか、市の責任の土地にするとか、そういうことまでは思ってないですけど、今耕作放棄地ですか、それを持ってる方々は割とおると思うんですよ、市全体に農業してたら。だから、遊休地がいっぱい残ってるという現状があると思うんですけど、そういうところは申し込んだらどうぞ、どうぞ、使ってください、ぜひ使ってくださいとか、そういう方々というのはおると思うんですよ。市が所有するとか、そういうことじゃなしにそういう一つの運動というたらおかしいですけど、取組を1次産業の普及のちょっとしたこととして取り組むことができないかなあと。所有とかなんとかじゃなしにそういうことを思ってるんですけど、どうでしょうか。

○岡村農政水産課長 市というか、農業委員会、推進委員会によります農地パトロールというのを毎年9月から11月にかけて市内の全域で実施しております。こういった中で、耕作放棄地等々の情報があればそれを吸い上げて、こういった場所にこういった耕作放棄地、圃場があるよというような形で周知できたらなと考えております。

それから、あと農地法の関係で相続の関係でそこをしっかりとやっていかないといけないというような形に今なっておりますんで、その際に農地を貸したいというような方がおられましたらその旨を伝えていただいたらうちの農業委員会の中でそういった方をあっせんしていくというようなこともできますので、そういった部分をしっかり活用していただけたらと思います。

○松本委員 今、ぜひそういうことは取り組んでほしいと思うんですよ。農業委員会の方々が中心に情報提供を含めてやってもらおうと、協力が必要だと思うんですけど、市のバックアップがあるのと個人が何かあそこは空いてるけど、貸してもらえますという敷居が高いというか、申し込む。そういうなんを情報として提供してもらえればね。一つの目標として小学校区と言いたいんですけど、中学校区に1個ぐらいここを何かそういう土地として市が第三の居場所じゃないですけど、そういうことで金を出すとかなんとかより、情報より多少の協力はさせてもらいますとかいうことができるんじゃないかなと思うんですけど、ぜひそういうことを進めてほしいと思います。別に答弁いいんですけど、よろしく。

○藪内委員 1個だけ意見をお伝えしたいんです。11日の市民ふれあい福祉まつりで市議会でトークコーナーをやったんですが、そこで吉永の方だったんですが、細かい数字を覚えてないんですけど、すごくもう農業をやっているところは軒数が減っていると。二、三軒しかない、その地区で。言われてたんで、本当困ってますと。ですから、私関係の法令とか何も知らないのにこういうことを伝えるのは危険ですけど、とにかく全体的に減っているんで、困っているという現状があるんで、対応のほうをよろしくお願いします。これ意見だけです。

○山本委員長 よろしいですか、休憩に入りたいんですが。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

暫時休憩いたします。

午前10時56分 休憩

午前11時10分 再開

***** 文化観光についての調査研究 *****

○山本委員長 委員会を再開いたします。

次に、文化観光についての調査研究をします。

北前船について。

○松本委員 北前船についていろいろあったんですけど、今どこまで進んでるんですか。もう設計できてとか、もろもろどこまで。

○草加日本遺産課長 船の建造につきまして、現在建造業者も決定をし、実際の設計に必要な重量計算、船の本体部分であったり、それから艀装部分の重量を計算し、それらが総トン数19トンという中に入るように現在調整をしているところであります。

○松本委員 その事業者というか、造船所はどこで、言えないですか。

○草加日本遺産課長 こちらにつきまして、業者の名前はツネイシクラフト&ファシリティーズという広島県尾道にある会社でございます。

○尾川委員 昔の常石造船じゃと思うけど、それは一般競争入札、どういうふうな形で、要するにどういう形でそういう業者というのは選定されとるわけ。

○草加日本遺産課長 こちらにつきまして、プロポーザル審査を行いまして、事業提案を広く募集をして、その結果としてツネイシさんに決定をしているところです。

○尾川委員 そのプロポーザルというのが一番今頃問題になってという、人の話よ、わしはよう分からんのやけど。ただ、プロポーザルの条件というんか、市として提案せえというんじゃけど、裸で提案せえというんじゃなしにそれなりの条件設定があると思うんです。それはこっちの者には見せてもらえんわけ。そういうものは一切クローズなんかな。

○草加日本遺産課長 公募の内容につきまして、当然委員がおっしゃられた裸でっていうお話ではなくて、発注の仕様書というものは定めてそれに合う提案をいただくようにしております。その中で、先ほど申しあげました総トン数が19トンであったり、それから速力、定員等につきま

してもその中に定めたもの、それらを満たす条件で御提案をいただくということにしております。

ただ、一定の商品、もう市販の商品を購入するものと、これから建造するもの、自由度の若干高いものという違いがありますので、極端に言いましたら車を購入するような単純に金額だけで比較ができるものとはやや趣旨が違うために今回もプロポーザル提案を採用しております。

○尾川委員 仕様書をつくるというてもみんな素人じゃがあ、市役所の職員は船のことは分からへんし。使うことだけ分かっても、じゃあ詳しいことどうじゃあというたりするのはその仕様書を指定するというて、その仕様書をつくるというのは誰がどういうふうにつくられるわけ。

○草加日本遺産課長 委員おっしゃられるとおり、私どもにはこの造船に関する知識というのはもちろんありません。そのために、令和5年度の予算で執行させていただきましたが、建造の基本設計というものは専門、経験のある業者さんをお願いをして、その結果として発注仕様書を定めて、それをホームページに公開をして入札、プロポーザルを受けております。

○尾川委員 そしたら、設計者は決まったらあな。その人がこういう船造れというて仕様書をつくって、オープンにして、ツネイシが手挙げて、その審査はどういうメンバーで、備前市としたら分かんのが審査するわけじゃけど、言葉はきついけど。そういうふうなんで、癒着なしに本当にきちっとそういう仕様書は明確にできて、造船所がはっきり明確に決まっていくという手順というのはきちっと説明できるわけ。そういうふうな仕組みというのはある程度、仕様書はアップしとるわけ、それは業者皆見るように。こっちの者で見えるわけ。

○草加日本遺産課長 公募の際、使いました仕様書についてはホームページにアップをしておりました。

○尾川委員 それ、今でもアップしとるわけ。それは見えるわけ、こっちでも。

○草加日本遺産課長 現在はホームページにはアップをしておりません。

○尾川委員 読売新聞に詳しく書いとったんじゃけど、備前市の北前船の。あれは仕様書とは全く関係ねえ話になるわけ。記事見た。あれとは関係ねえ、仕様書とは関係ねえわけ。

今さらああじゃ、こうじゃ言うたってずんずん進んでいきよんじゃけど、ただ聞かれたときに説明できるだけの、こういうふうに決まってこういうふうになっとなですよというのを最低限の説明を。委員会もしっかりしてねえかもしれんけど、事前にこういう形である程度いきますというふうな、仕様書もこうですよというのを教えてくれても、議決せえだけ、金だけは決めえというて中身が分かんようじゃ。何もかんも知らあでもええといやあそうじゃけど、市民にわしら聞かれるわけじゃ。その辺を事前に月に一回委員会やりよるわけじゃから、そのときに情報を所管事務調査じゃねえけど、教えていただけりゃへんかと思うて。そういうのはこういうふうにしますと、ああいうふうになってこういう内容ですというのは一から十まで言わあでもええというんかもしれんけど、その辺は感覚の違いじゃけど、わしらとすりゃあ新聞に出とるぐらいやから事前に教えてくれりゃあええのになあというのは素人考えなんじゃけどな。その辺をどねえ思わ

れるんかなと思うて。

○草加日本遺産課長 御指摘の点は重く受け止めまして、入札執行であったり、それから予算等に支障のない範囲であれば積極的に委員会で御報告をしてまいるように心がけます。

○松本委員 大体分かりましたけど、経過は。私一般質問でも市長としましたけど、どうやってお客を呼び込むんですかと言ったら明確な答弁はなかったと思うんですけど、これ今関西万博いろいろ問題になってますけど、万博のインバウンドだけじゃなしに国内の方々も呼ぶにつけて、私これ方策といいますか、マスコミを使って宣伝するとか、お客を呼ぶためにいろいろ手はずをこれからやっていかんといけんと思うんですけど、どう考えてますか。どうやって、どういう手段でどう呼び込むというか、PRといいますか。

計画を見れば1年に5,000人でしたか、100日運行で5,000人、具体的にその目標をやるためにどういうふうにして目標達成しようとか考えられてるんですか。そこら辺が明確にはまだなっていないというたらおかしいけど。

○草加日本遺産課長 皆様御承知のとおり、北前船の寄港地というのが日本全国で多くの自治体が参加をし、日本遺産認定であれば現在のところ49の自治体が寄港地として認定をされています。それらの寄港地全てを巡ることは当然ながら今回の船であれば航行できない海域もございますので、どうしても近隣にはならざるを得ないですけど、少なくとも北前船が寄港していたと認定をされている一例としまして、兵庫県赤穂市の坂越であったり、岡山市の犬島であったり、そういったところへの運航不定期にはなりますけれども、観光ルートの設定を現在進めて検討をして、関係自治体と協議を始めているところです。

それらの航路につきまして、実際の運航に当たっては運輸側の認可というものが必要になりますので、そのあたりを詰めた上でこういうルートを不定期運航での事業提案というものを旅行会社さんにも御相談をしながら進めていき、備前に来ていただいて不定期の船ですので、日生から出発をしてどこかで降りるということができません。日生へ必ず帰ってきますので、そこからまた市内のほかの日本遺産、閑谷学校であったり、備前焼であったり、そういったものを体験していただければと思っております。

そういうふうに2か所以上を市内で有料観光施設であったり、体験をしたり、また飲食をしてくださると観光ツアーの促進補助金というものもお出しができますので、そういったものがあることも併せて周知をしながら市内への誘客を進めてまいりたいと考えます。

○松本委員 僕の問題意識とは全然今回答になってないような気がするんですけど。100日運航して5,000人を集めるというのは、これ非常に難しい、これそのものはもう非常に難しい問題だと思うし、僕は一般質問でもしましたけど、例えば今大生汽船ありますね。あそこもお客がなくて困ってますよ。もう採算が合わない、補助金がないと運営できない、そういう現実がありながら、また新たな観光船を出してどういうふうにも、100日5,000人を集めるんかというのは、これはどう考えてもどうやるんじやろうかと。その疑問がもう私だけじゃないですよ、

みんな思ってますよ、日生の人含めてね。だから、それについては何か出さないと、こうやりますと。まだ考えてるんでしょうけど、それは一つの大きな課題としてあると思うんです。

それからもう一つ、私この前、北前船フォーラム2日間岡山に行きましたけど、あれずうっと参加しながら、確かに備前市は岡山県で2番目ですか、早かったけど、例えば岡山とか下津井とか、ああいうところに比べたらもうスケールが全然違うなと感じたんです。この北前船で大多府を中心に、片上湾も含めてですか、これどこをPRするかなあと。PRの材料そのものが下津井とか玉島とか、西大寺とか比べてないなあと、特別の魅力的なものがないなあとということを率直に感ぜざるを得なかったですね。

実際、私そうだと思うんですよ。皆さん方は閑谷学校とか、備前焼とか、それとドッキングさせて、一つのメニューとして北前船を位置づけてトータルとして宣伝していくという、観光客を誘致するというのを、それは一般論としては分かるんですけど、観光船を造って、造らないとそれができないかというと思うは思わないですよ。ほとんどの人もそういう意見が、何で造るんか分かんないと、今船あるじゃないかと。船あるのに今そういうことを思ってるんなら3つの日本遺産をドッキングさせて、そういうPRをしてもええがと。大生汽船の船を使ってでもできんことはない。何で造るんかなということを率直に疑問を持ってるんですね。

そういう点で、ほかの岡山県の地域と比べてどうもPRする目玉商品というか、ここへ行ってみようとかないと思うんですけど、そこら辺の感想だけ聞かせてください。

○草加日本遺産課長 実際にこの観光船を造っての一番の目玉というか、セールスポイントになるところは予算で別にデザイン料が発生をしておりますけれども、JR九州ななつ星をデザインされた水戸岡先生が、尾川委員おっしゃられた読売新聞の記事もそうですけれども、デザインをしてくださって、航海時には支障になるので、上げませんけれども、帆を象徴的なものとして装備した船、内装がななつ星に勝るとも劣らないようなものになるのではないかと期待をしておりますけれども、水戸岡デザインによる豪華なものというのは通常の船で航海をするよりも、もしくは航海をしなくても船上で停泊中で何かしらイベントをしていただくときにも誘客のメリットはあると思いますし、私どもの事業ではないんですけど、近隣のバス会社さんも豪華なバスを造って、それを運行していて誘客につなげているという例も聞きますので、そのあたりをキーワードにしていければと思います。

○松本委員 今の答弁で納得するでしょうか。それは非常に貧困というたらおかしいけど、どうも納得できるような、特にないような、率直に思います。

私も造る以上どうやったらええんかなといろいろ考えるし、よその例なんか見ても、研究したつもりですよ。つもりだけど、これ半分冗談で言ったんですけど、どっかの映画のロケを、観光船を造ってやるとか、そういう船そのものがどうのこうのとかじゃなしに、あれも含めて日生全体の観光を推進するためのイベントとか、映画を作るとか、それこそ岡千秋じゃないけど、なんか歌つくって、作曲してくれえとか含めて船そのものじゃなしにそれも含めたPRも含めてやら

ないと、全国で5,000人集めようと思うたらこれは非常に難しいなと。そういうことを思いながら、ある程度そこら辺は十分これから練っているいろいろ考えてほしいと思うんです。

○尾川委員 何ぼかかるんならということを一遍数値にしてもらいたい。今まで北前船、備前焼もそうじゃけど、何かなしに予算は取って使うたと。どの程度使うたというのは決算見りゃええがな言われるけど、あっちゃこっち飛んだらよう分からんのんじゃな。もう少し具体的に、北前船に限って例えばどのくらい今費用を使うて、それに対して費用対効果が、ある程度それはもうちょっと先見てくれ言われるかもしれんけえ、担当部長は。何ぼ使うてどういう効果があつて、ある程度軌道修正はせにゃあいけんと思う。何もかんも全部が全部ホームラン打つわけにいきゃあへんからな。空振りもあるんじゃけど、ある程度このくらい使うてきたと。それに対してこういう結果が出ると。これからはこれだけ使うと。こういう結果を求めていくというものをきちっと示してほしい。夜寝て朝起きて考えてくるぐらいなところじゃから、もう走りながら考ええという、要するにそういう考え方じゃから、今頃は。昔は計画が出て、じっくり計画を練って結果をという、そんな時間ない、悠長なこと言うたられんような時代かもしれんし。何ぼかかってどういう効果があったかということちゃんと報告してほしい。担当課長もよう替わられるし、分からんじゃろうけん。そういう状況じゃからもう少しどういう方向に行くんかと。

口頭でもええけえ、また書類で出してもらやあ、今までどのくらいかかってどういう効果を期待しつつ、どういう効果があったというのをきちっとした形で示してほしいんじゃけどな。その辺を答えてもらたと思う。

船は全体としての一つの事項じゃが。一つの手段であつて、船造つてこういうPRしていっってお客さん取つてこうと思うとるといふ、あくまでもテクニックじゃからな。じゃなしに、全体像がどのくらい使つて、こういう方策、こういう具体的な手段でお客を集客していくと。備前市を活性化させるんじゃと。観光人口をどのくらい増やしていこうとしとんじゃとかというものを示してほしいと。

○大岩日本遺産・観光部長 委員がおっしゃるのは今までに例えばフォーラムでフランスに行った事業であるとか、今後EU各国の巡回展であるとかそういったものを含めた事業全般のかかった費用についての費用効果ということですか。

○尾川委員 そういうことで、今までも何ぼかかって、税金使いよんじゃから明確に示してあげんと思う。失敗はあると思うよ、絶対。全部が全部ホームラン打てるわけじゃねえんじゃから。失敗して、それを積み重ねていって成果を得るといふのが、どんなところだつてそううまいこと全部が全部いきゃあへんと思う。ただこれから展示するとか、来年になったらな。ざつとやうて7,500万円ぐらいかかるんじゃ。1億円かかると思うんじゃ、わし。これからよ。1億円に対してどのくらいのメリットがあつて、数字に表れるものがあるんで、そういうものを。

それで、今度ミュージアムできたら、ピカソ展する言よつたが、この間北前船のフォーラムで。そんなんでもピカソ展するのはどのくらいかかるんならというのを想定して計画というもの

を立ててほしいと。

実際やるんか、あれだけみんなの前で言うとなんじゃからやと思うんで。そういうことを想定して、展示して曲げわっぱと一緒に何かするというで。それが7,500万円のうちかどうかわらんのか。そういうものでどのくらい本当にこれからかかるのか。

今も話聞きよったけど、うみラボの問題でも何億円もらえるからええが、3年間行って、あとは野となれ、山となれでいけえと、もらわん手はねえというふうに。そういう成功する場合と失敗する場合があるけど、そういうことをきちっと取りまとめて計画というものを、何億円も使うんじやったら計画書をつくるべきじやと思うけどな。その辺感想を。

○大岩日本遺産・観光部長 委員おっしゃることはよく分かります。今、予算上だけでまだ実際事業が動いてないんで、実際にはどれだけこれからかかるかというのも、まだピカソ展にしても借りてくるのにどれだけ保険が要るとか、輸送なら輸送料が要るとか、まだ分からない面が多々あるんですけども、そういったことも含めて今後北前船関係でどのような事業があるのかということは何らかの形でお示ししたいとは思っています。

ただ、それをしたということで観光面についてどれだけのメリット、お金の面でどれだけ歳入があったとか、そういうことはなかなか出すのは難しいですけども、備前市にどのような効果があったかということは今後見ていただく中で出てくるんだろうとは思いますが、その辺も含めて今後どういった事業でどのくらいの、今かかっていくのかというのはある程度の資料はお出したいなと考えております。

○尾川委員 今話があったが、5,000人、100日運航、それと一緒に、実際できんじやろうという言よるし、できる言よるわけで。計画の段階じゃあ細え数字言うたんじゃ計画にならんし、その辺常識的な範囲でな。1億円使ったら1億円返ってくるというまでは言わんとしても、ある程度観光客をどのくらい集めていこうと思うとるとか、どういう波及効果がある、あるいは子供にどういう影響があるんな、備前市にとってこういうもんじやというものはある程度示してもらわんと、もうとにかく備前焼、備前焼というてやりよるなあというて言われるわけじや。大事にせにやいけんけえのうというてこっちは言うんじやけえな。だけど、きちっと明確に計画書というものをつくってほしいと思う、わしは。これだけ大がかりにやって、まして外国とやっていくということはヨーロッパの支局長か、あれだけ大見え切ってまだニーズはあると。備前焼売れるというか、日本は好きなんじやというてあれだけ言うてくれたら、あれだけ大見え切って言うんじやからついていかにやいけんなあと思うたんは思うたんじやけど。要するに、きちっと早急に今までどのくらい使うて、これからどのくらいというものの計画というものをわしらに出せというんじやなしに、自分らでも知っとかにやいけんと思うんじや。執行部そのものが。と思うんよ、わしは。それに対してやってほしいということ。何かあったら答弁して。

○大岩日本遺産・観光部長 日本遺産・観光部いろいろな課がございますので、そういった課をまとめてそういった今後展開していく事業をある程度お示しできたらなと考えております。

○尾川委員 大岩部長が取り仕切って、取りまとめがおらにやおえんのじゃて。総括する者が。あんたがわしのところへ資料を持ってけえと。いつまでに持ってけえというぐれえじゃねえとまとまらんのじゃ。それで、引っ張っていかなんだら。そうか、そうかというてあっちも親分、こっちも親分でおえん。親分でぱっと引っ張っていかなんだら。税金使いよんじゃから、税金を。ポケットマネーでいくんなら何ぼでも使やええんじゃ。人の勝手じゃあ。そうはいかん、これは。あんたがきちっと取りまとめも、資料を持ってけえというて言やあええんじゃと、そう思うとん、わしは。

○大岩日本遺産・観光部長 私のほうで取りまとめはいたします。

○山本委員長 ほかにありませんか。

○藪内委員 これもう前へ向いていかんと仕方ないんで、お聞きしたいんですけど、今もされてるんでしょうけど、PRであるとか、広告等どういふのをやっておられたり、今後どういふのをやられようとしてますか。

○草加日本遺産課長 今後のPRにつきましては、先ほど松本委員の御質問にお答えをしたように、近隣と協議を調えた上で寄港地として認定されているところへの不定期の運航、これがプランとしてまとまりましたらこれを積極的にPRして、旅行会社への売り込み等でそこを通してさらに集客をしていただければと思います。市としてもしっかりPRをしてまいろうと思います。

○藪内委員 しっかりしてとか、よく分かるんですけど、そろそろもう進んでいくわけですし、先日行われましたフォーラム、私も2日間参加させてもらっているところがあって、既に49の仲間がおられるわけですね。その仲間の市町というか、そこら辺にどんどんどんどんお願いしていくと。とにかく一回北前船があるんで、乗りに来てくださいますか、そういうのをどんどん早くつくって、パンフ等を。そこへ宣伝に行く、もう49か所。ああいうフォーラムのところは一応各地から集まっているわけですから、あそこへどんどんどんどんその場でPRさせていただく、年1回ですかね。そういう機会も使ってどんどんやっていく。

ただ、大阪関西万博ですか、危ないようなことを聞いたりもしますし、それに来られるインバウンドの方を当てにしているんですけど、単純に100日で5,000人ですから1日50人ですか、50人もその航路で時間的にどのぐらいかかるか、一回に乗るのそんなに多くを設定してなかったですよ。だから、3回転か4回転してやっと50人が成立するぐらいじゃないですかね。

○草加日本遺産課長 今回の船の建造の仕様書としまして、乗客、乗り込める方につきましてはお客様のほうで45名が最大で乗ることができます。先ほどから引き合いに出される50人、100日というあたりの50とは若干下回りますけれども、おおむね50人が一度に乗船はできる、利用できる人数になります。

○藪内委員 前に質問したときに観光バス対象にされますかというたら観光バスは思っていないと。それは人数が多過ぎるんで、一回に乗れないと。すごい数少ないように聞いたんですけど

ね。45名とかじゃなく、10名、20名ぐらいのようなことを聞いて、だから回轉的に厳しいんじゃないかなあと思うんですけど。JRのお客様、言うことがちぐはぐしますけど、富裕層であったり、JRとかってというのががちがちとしますけれど、その辺どのように計算されとられるのかなあと思うて。

○草加日本遺産課長 委員おっしゃられる人数につきましては、船内、甲板下の客室に入れる人数でのお答えやっと思います、そちらにつきましては、委員おっしゃるとおり19名を想定した船になります。それから、甲板上も使つての45名と、上が26名ということでのお答えを私先ほどさせていただきました。船内へ下りていただく方とすれば現在の設計では19名ですので、一般の観光バスであれば確かに1台の定員が四十数名であろうと思いますので、それについて一度に受入れをすることはできないと思っております。

ただ、実際にタイアップができるかどうかは今後の協議なり、先方のお考えによると思っておりますけれども、先ほど御紹介しました近隣の観光バスの中では豪華な車内で実際にはもうシートが縦に3列です。通常であれば2名がけが通路両側にあるような、極端に言えば補助席ありのようなバスであるかと思っておりますけれども、シートの間を隙間を持たせたようなゆったりした車内で20名前後の定員で運行してらっしゃる事業者もいらっしゃいますので、そこらあたりと今後御相談、お話ができていけば幾らかうまく展開できないかなと思っております。

○藪内委員 中身知らないですけど、両備さんにきれいなバスとかあるんで、ああいうところとまた一緒にコラボしてやっていくとかなんでしょうけれど、とにかもう無差別にどんどんPRするよりも、一応49というのが今あるんで、もうこれは私の考えですけど、そこを目がけて、あとフォーラム等その関係のところにも。この間集まってる人の数を見ると、そういう人に連絡していただくだけでもすごいと思うんで、そういうところをこつこつやらないと仕方ないと思うんですけど、もし何かあれば。

○草加日本遺産課長 アドバイスありがとうございます、本当に備前市をのけて48の自治体というのは当然ながら北前船というキーワードでもう既につながっておりますので、そこへのPRについてはこの御縁を持ってしっかりお願いをしていこうと思っております。ありがとうございます。

○松本委員 私もう何回も言いますが、率直に聞きたいんですけど、あなた方は本当に、3人おりますけど、本当にこの事業が成功すると思っておりますか。率直に聞きたいですよ、率直にね。きつい言い方ですけど。

それともう一つは、市長も含めてNORINAHALLEでいいですが、一回回ってきてくださいよ。この寒い中に甲板に出て観光しますか。真夏の暑い日に甲板に出て誰が観光しますか。それをぜひ体験してほしいと思うんですよ。話しよんで空論ばかり。空論というたらおかしいですけど、もうむなしいですよ。現実全然見てない。市長に言ったら努力、努力、努力。ほいで、御立腹されているいろいろありましたけど、あなた方に同情するというたらおかしいけど、努力するのはある程度展望というか、何か確信がないとそんな気も湧かないでしょうよ。僕はあなた

方率直に言って気の毒なと思うんですけど、こういう発言をここでしていいんかどうかわかりませんけどね。

そこはもう冷静に考えてほしいと思うんですよ、本当に率直にどう思ってるんかを含めて。何の展望もないですよ、これ。多くの方は、日生の九十何%、もう知りませんが、誰一人何でこんなことするんならという。ちまたの意見を聞いてほしいと思うんですよ、本当。

それと、私こういうことを決めた議会そのものも、議員そのものも率直に聞きたいですよ、皆さん方に、賛成した方々に。なぜこういうことに賛成するんですかと。委員会というのはそういうふうな率直にフランクな話をしてもいいと思うんですけどね。賛成意見、根拠を言ってほしいと思うんです。聞きたいですよ。それほどこの事業というのは私あきれますよ。あきれると言うよりもあきれれるを超えていますよ。もう現実を全然見てない。こういう感情論の話をしてもしようがない。私は全部言いたいことは資料を含めて数字も含めて一般質問か何か言ってきましたよ。だけど、そのことが理解できなかったらもう何を話ししてるかさっぱり分らないですよ。何を根拠にこんな話しせんといけんのか。どうでしょうか、委員長。

副委員長を含めて賛成した方々の率直な意見、意見というよりもどう思ってるか聞きたいです。こういう話をしちゃいけないのですか。

○**山本委員長** 松本委員、その前に執行部への質疑がある方。

○**石原委員** 先ほど、松本委員のそのことはもう執行部おられずともできるところかなあと。まず、執行部おられるんで、さっき松本委員もおっしゃったり、賛否が分かれて予算可決をされてとにかく進みますんで、その中で市民の方々、中には直接お聞きされたりする機会があればよろしいかと思うんですが、じゃあ大きな費用をかけて市が市費を投入して観光船を建造することに対してかなり心配といいますか、不安の声といいますか、それだけの費用をかけるのであればまた違うようなことに、有効な備前市の施策も可能じゃないかというような声も結構ありますんで、だから対外的なPRももちろんですが、市内、市民に向けてもいつぞや広報にデザインのチラシ、あれは広報に挟まれとっかな、お見かけした記憶があるんですけども、例えばもうホームページなんか開いて今恐らく掲載されたり、ホームページなんかでPRされとんか分らないですけど、多分ネットのニュースなんかでは備前市が建造しますと見かけますけれども、だからしっかりそのあたりも市民に向けてもその事業の有効性であったり、今後の展望であったり、逐一、随時お知らせをする御努力をぜひとも続けていただきたいという思いでございます。市民に向けても。内外、内のほうもしっかり重視していただいとと思うが、いかがでしょうか。

○**草加日本遺産課長** まさに御指摘の点、12月号の広報に北前船デザイン決定という記事を、掲載する予定で現在準備をしております。実際の発行までしばしお待ちください。

今回だけで終わらずに、おっしゃられたように逐一事業展開であったり、そういったことをまた「広報びぜん」通して市民の方にもお伝えをしていくように心がけます。

○**尾川委員** 確認させてもらう。北前船って船のハードだけじゃねえんじゃ、わし言よんのは。

全体像を、要するにそういう事業の全体をもう少し説明してほしい。船のことも船のことじゃけど、船以外のいろんな備前焼の振興とかということについてのそういうパリへ行って、あるいはいろんな事業をするとかという全体像を教えてください。

要するに、北前船という名前を使うてよそとの交流を図ったり、ヨーロッパまで行ってという、そういうこれからもしようとすると。大館市と特にこうこうこういう交流をしていくんじやとかということをもう少し詳しく全体像を教えてください。ほかの人は船のことを言よんじやけど、船だけじゃねえんじや。全体像をもう少しきちっと教えて、あるべき方向をきちっと示してほしいと言よる。分かってくれとると思うけど。

○山本委員長 ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、総務産業委員会を閉会いたします。

お疲れさまでした。

午前11時58分 閉会